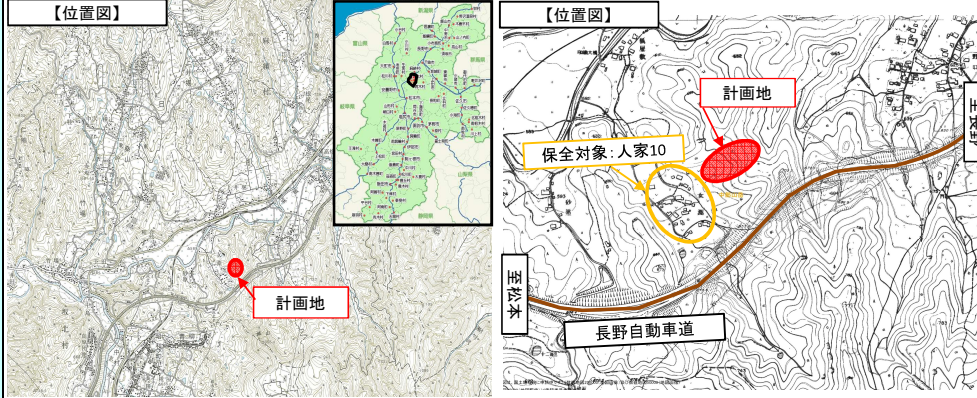


(様式2)新規評価シート

林務部 森林づくり推進課

事業名		山地治山		路河川名等		—	
事業毎の通番		9		市町村名		麻績村	
事業目的		H16年の台風で人家裏の山から土砂が流出し、お墓が流された。今後の豪雨等により拡大崩壊が懸念される。このため山腹工1個、土留工9個を計画し、下流の保全対象の村道、人家10戸の安全を確保する。					
しあわせ信州創造プランにおける位置付け		4-1地域防災力の向上(災害に強い地域づくり)		事業実施の根拠法令等		森林法	
関連する事業、計画等							
保全対象・範囲 受益対象・範囲		村道200m 人家10戸					
着手年度		平成29年度		事業期間		2年間	
完成年度(見込み)		平成30年度		費用対効果		4.9	
全体事業内容(主な工種)		山腹工0.60ha 土留工9個		事業費(千円)		70,000	
年度事業内容(主な工種)		山腹工0.60ha		国庫		35,000	
				その他		31,500	
				県債		15,750	
				一般財源		3,500	
事業効果		直接的効果(定量的・定性的) 村道500m、人家10戸の保全					
		間接的効果(定量的・定性的) 地域住民の安全・安心の確保					
必要性		○人家戸数:		10戸		評価	
		○公共施設数:		村道500m		C	
		○災害時要援護者関連施設の有無:		なし			
		○保安林・林業用施設:		保安林指定承諾書依頼中			
重要性		○過去の災害履歴:		土砂流出、人家裏のお墓が被災		評価	
		○交通遮断による地域経済への影響:		中		B	
		○地域防災計画上の位置付け:		位置づけなし			
効率性		○費用便益比(B/C):		B/C=4.91		評価	
		○事業期間:		事業期間2年		A	
		○工法等の比較検討:					
		○流域の総合調整:		麻績村と現地確認済			
緊急性		○流域の地形、地質:		土砂、粘質土		評価	
		○平均渓床勾配(平均山腹勾配):		平均河床勾配5°		A	
		○下流の堰堤等の整備状況:		治山施設あり(土留工(ブロック)4基、最下流カゴ枠5段(村単事業))			
		○山地災害危険地区危険度・土砂災害防止法指定区域崩壊土砂446-12(B)					
計画熟度		○事業情報の共有:		麻績村振興課に周知		評価	
		○地域の取り組み:		土砂災害防止に対する要望は高い		C	
		○地域の合意形成:					
		○住民との協働:					
部意見		今後の降雨等により山腹が拡大崩壊し、下方人家に土砂が流出する恐れがあるため対策工事を行う必要がある。		行政改革課意見		今後の降雨により山腹崩壊が拡大する恐れがあるため、緊急性が認められる。	
						評価結果 総合評価	
						○ B	

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)



【位置図】


【位置図】

計画地

保全対象: 人家10

長野自動車道

【整備の必要性がわかる状況写真等】



土砂流出発生源

倒木あり

保全対象: 下流の人家、お墓

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	平成16年台風で既設フトンカゴを乗り越えて土砂が流出しお墓に被害があったことから、継続的に対策要望があった。そのため、土砂発生源に山腹工を設置、下流に土留工を設置することにより、表土流出の防止、植生の定着を図る。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	平成25年以降から保全対象となる女淵地区から麻績村を通して事業要望があり、平成28年4月に麻績村役場職員と現地踏査を実施した。
③事業説明等の経緯	平成28年4月18日に麻績村と平成29年度の要望箇所の現地調査を行なった。今後は事業計画が確定次第、具体的な工事内容について地元説明会を開催する予定。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	・近くで村道の拡幅工事の予定があるが、女淵・砂原公民館前の村道は通行可能なので工事車両の通行に支障なし。ただ、工事時期等を麻績村に事前連絡する必要がある。 ・H28年度に麻績村の村単事業で近隣でアカマツの枯損木を処理し、樹種転換を図っている。
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	土留工、山腹工の整備により、森林の崩壊を防ぐとともに、村道の通行の安全確保、下流集落住民の生活の安全確保を図る。
⑥地域活性化への影響と配慮	治山事業による安全確保は、下流集落の過疎防止と住民生活による地域の活性化と関係しており、早期の安定化が必要である。新設する土留工は、施設規模を適正なものとし、工事に伴う地形改変を極力少なくするよう計画する。
⑦その他	なし

事業代表地点の緯度経度	北緯: N	36-26-24
	東経: E	138-1-46